

子どもら震災記録編集

動画や壁新聞製作

東松島市図書館
ワークショップ
防災意識向上へ



パソコンでの編集や、壁新聞で震災記録を保存する親子ら―東松島市コミュニティセンター

甚大な被害となった東日本大震災の記録化を進める東松島市図書館は10日、独立行政法人防災科学技術研究所(茨城県つくば市)の協力を得て、市コミュニティセンターで親子らを対象に「きつず夏休み 復興アーカイブ記録・編集ワークショップ」を開いた。子どもたちは大震災の被災体験などを映像や壁新聞に編集して保存し、真摯(しんし)に震災に向き合った。関係者は、将来を担う若い世代の防災意識の高まりに期待を寄せた。

市内の親子や中学生グループなど3組、10人が、滅的な被害の野蒜や、宮受講。同研究所や大学関係者ら官民で震災記録の保存をサポートする「311まるごとアーカイブス」事務局の小島誠一郎さんが指導した。

編集に先立ち、7月下旬に撮影や取材の仕方、パソコン操作を学んだ参加者は、震災当時の映像のほか、復興に動きだす被災地の写真、友人らのメッセージも加えて作業に取り組んだ。

参加者はこれまで、壊滅的な被害の野蒜や、宮戸・月浜などで取材活動を展開。撮りためた写真や動画、記録ノートを持ち寄り、パソコンによる編集や壁新聞の製作に励んだ。

長男洸君(小野小6年)と次男薫君(同4年)とともに参加した主婦寺田あけみさん(40)「東松島市川下内響」は、発災時に自宅ビデオ撮影した吉田川をさかのぼる大津波の映像を交えて編集。川

をがれきと一緒に流されながらも助かった住民のインタビューも添えてパソコンに保存した。

洸君は「助かった人の話を聞くと、大震災の恐ろしさがよみがえってくる。映像や壁新聞を友達に紹介し、災害の備えに役立ててほしい」と話し、あけみさんは「被災体験を風化させずに伝えることが復興への一歩になる」と期待を込めた。

阪神大震災でも支援活

動に当たった同事務局の「は、震災の記録保存に取め、記録の保存と活用小島さんは「復旧、復興り組む余裕がないのが実の大切さを知るきっかけ事業に追われる行政側情。今後の防災教育も含になれば」と話している。